

一般社団法人 日本原子力学会
第 71 回 標準委員会 (SC) 議事録

- 1 日時 2017 年 12 月 06 日 (水) 13:30~19:55
- 2 場所 5 東洋海事ビル D 会議室
- 3 出席者 (敬称略) (開始時)
 - (出席委員) 関村委員長, 越塚副委員長, 伊藤幹事, 青柳, 井口, 上田 (真), 上田 (親), 岡本 (太), 河井, 酒井, 高橋, 竹山, 多田, 中井, 中村, 成宮, 新堀, 西野, 萩原, 吉原, 渡邊 (21 名)
 - (フェロー委員) 成合, 宮野 (2 名)
 - (代理委員) 山内景介 (東京電力ホールディングス/姉川), 鈴木嘉章 (システム安全専門部会幹事/岡本 (孝)), 山本章夫 (リスク専門部会副部会長/山口) (3 名)
 - (欠席委員) 小原, 清水, 寺井 (3 名)
 - (委員候補) 松井哲也 (日立 GE ニュークリア・エナジー) (1 名)
 - (欠席常時参加者) 鈴木 (1 名)
 - (代理常時参加者) 藤井英明 (原子力規制庁/山中) (1 名)
 - (オブザーバ) 北嶋宜仁 (日本原子力発電), 洞山祐介 (東芝エネルギーシステムズ) (2 名)
 - (説明者) 【核燃料施設リスク評価分科会】吉田主査 (リスク専門部会委員), 【風洞実験実施基準分科会】伊藤幹事, 【レベル 1PRA 分科会】橋本幹事, 【LLW 放射能評価分科会】北島幹事, 柏木常時参加者, 【PLM 分科会】中川幹事, 伊藤常時参加者, 【リスク専門部会】成宮幹事, 野村常時参加者, 【水化学管理分科会】北島幹事, 梅原常時参加者, 【シビアアクシデントマネジメント分科会】鎌田幹事, 黒岩委員, 【統合的安全性向上分科会】成宮主査, 倉本幹事, 野村常時参加者, 【BWR 熱流動評価分科会】久保幹事, 末廣幹事, 【標準活動基本戦略タスク】伊藤主査, 河井幹事, 成宮幹事, 高橋委員, 田老事務局, 中越事務局補助【原子力安全検討会】河井幹事, 成宮幹事 (延べ 26 名)
 - (事務局) 中越, 田老, 谷井 (3 名)
- 4 配布資料 :
 - SC71-0 第 71 回標準委員会議事次第 (案)
 - SC71-1 第 70 回標準委員会議事録 (案)
 - SC71-2-1 人事について (標準委員会)
 - SC71-2-2 標準活動基本戦略タスク 委員名簿
 - SC71-2-3 人事について (専門部会)
 - SC71-3-1 “核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*” の標準原案に関する公衆審査結果について
 - SC71-3-2 “核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*” の標準原案に関する公衆審査で受付けた意見への回答 (案)

- SC71-3-3 “核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*” の標準原案に関する公衆審査前後比較表
- SC71-3-4 日本原子力学会 2017 秋の大会 標準委員会セッション1 講演メモ
- SC71-4 “発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準” の標準改定原案に関する公衆審査結果について
- SC71-5 “原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的リスク評価に係る実施基準（レベル1 PRA 編：201X” の改定案の標準委員会決議投票コメントへの対応について
- SC71-6-1 “中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順” の標準改定原案に関する標準委員会決議投票結果について
- SC71-6-2 “中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順” の標準改定原案に関する標準委員会決議投票で受付けた意見への対応表
- SC71-6-3 “中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順” の改定前後比較表
- SC71-7-1 高経年化対策実施基準 2018（追補 2）の標準原案に関する標準委員会決議投票結果について
- SC71-7-2 高経年化対策実施基準 2018（追補 2）標準委員会決議投票の意見対応表
- SC71-8-1 PLM 実施基準 2015（英語版）に関する標準委員会意見募集結果について
- SC71-8-2 PLM 実施基準 2015（英語版）標準委員会意見対応案
- SC71-9-1 “原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編）：201X” の標準の修正に関する標準委員会決議投票結果について
- SC71-9-2 “原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編）：201X” 標準委員会決議投票時の意見への対応について
- SC71-9-3 “原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編）：201X” の転載許諾手続きに伴う修正について
- SC71-10 本報告（概要）“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－よう素 131”，“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－コバルト 60 イオン” 及び“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－金属不純物”
- SC71-11-1 ” 原子力発電所におけるシビアアクシデントマネジメントの整備及び維持向上に関する実施基準：201X” 改定に関する本報告
- SC71-11-2 ” 原子力発電所におけるシビアアクシデントマネジメントの整備及び維持向上に関する実施基準：201X” 改定案
- SC71-12-1 “原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X” の標準原案に関する標準委員会意見募集結果について
- SC71-12-2 “原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X” 策定に関する中間報告
- SC71-12-3 “原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X” の標準原案に関する標準委員会意見募集結果で受付けた意見への対応表
- SC71-13-1 “原子力施設の確率論的リスク評価標準で共通に使用される用語の定義：201X” の標準改定原案に関する標準委員会意見募集結果について

- SC71-13-2 “原子力施設の確率論的リスク評価標準で共通に使用される用語の定義：201X”の標準改定原案に関する標準委員会意見募集結果で受付けた意見への対応表
- SC71-14 “原子力施設のリスク評価の品質確保に関する実施基準：201X”改定の中
間報告
- SC71-15 学協会規格体系化のための検討（最終報告）の概要
- SC71-16 技術レポート・用語辞典 2016の更新について
- SC71-17-1-1 標準活動基本戦略タスク 2017年度第三回議事録
- SC71-17-1-2 標準委員会活動全体計画(案)
- SC71-17-2 2017年度活動中間報告及び2018年度活動計画（案）
- SC71-17-3 標準策定5カ年計画の更新ガイドライン(案)の策定の経緯と趣旨について
- SC71-17-4 標準委員会の標準策定5カ年計画の更新について（依頼）
- SC71-17-5 標準委員会活動5カ年計画(案)の策定の経緯と趣旨について
- SC71-17-6 ANS内規とのギャップ分析の経緯と趣旨について
- SC71-17-7 学協会協議会及び基本戦略タスクでの学協会規格整備計画の検討状況（そ
の24）
- SC71-17-8 倫理規程等の周知徹底に向けた活動フォローについて
- SC71-17-9 SG-108 倫理教育実施ガイドライン
- SC71-17-10 標準委員会における標準／技術レポートの審議の留意点について
- SC71-17-11 2018春の年会セッション提案書
- SC71-17-12 標準委員会ファイル共有専用サーバの運用について（案）
- SC71-17-13-1 標準委員会の出席状況
- SC71-17-13-2 投票率
- SC71-17-13-3 投票メールの扱いについて
- SC71-17-14 平成30年度フェロー候補の御推薦のお願い
- SC71-18 （欠番）
- SC71-19-1 “BWRの核熱水力安定性評価標準:201X”の改定に係る中間報告
- SC71-19-2 “BWRの核熱水力安定性評価標準:201X”改定案（中間報告用）
- SC71-20 専門部会活動状況報告
- SC71-21 標準委員会の活動状況
- SC71-22 ASRAM2017開催報告
- 参考資料
- SC71-参考1 標準委員会委員名簿
- SC71-参考2 標準委員会開催スケジュールについて（案）

5 議事内容

事務局から開始の時点で委員（フェロー委員含め）29名中、26名の出席があり、委員成立に必要な委員数（20名以上）を満足している旨、報告があった。

（1）前回議事録の確認（SC71-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について (SC71-2-1, SC71-2-2, SC71-2-3)

事務局配付資料の SC71-2-1, SC71-2-2, SC71-2-3 に基づいて、標準委員会、標準活動基本戦略タスク及び専門部会の人事について以下の提案又は報告があった。

なお、人事の案件は、確認事項を除き対象者は退席し、委員のみの自由討議を経て、審議される。

a. 標準委員会人事

①委員退任の確認

藤森 治男 (日立 GE ニュークリア・エナジー)

②委員選任決議

松井 哲也 (日立 GE ニュークリア・エナジー)

尾崎 博 (富士電機)

③委員再任の決議

姉川 尚史 (東京電力ホールディングス)

井口 哲夫 (名古屋大学)

多田 伸雄 (日本電機工業会)

中井 良大 (日本原子力研究開発機構)

委員の退任が確認され、審議の結果、委員の選任等が決議された。

b. 標準活動基本戦略タスク人事

①委員等の確認

システム安全専門部会副部会長の人事において鬼沢邦雄氏が指名されたことに伴い、中村武彦氏は退任、鬼沢邦雄氏が新委員となり、標準委員会副委員長の越塚誠氏が常時参加者となった。また原子力学会 (標準課長) 田老信匡氏が事務局に、原子力学会 (開発課長) 中越哲浩氏が事務局補助となった。

c. リスク専門部会

①委員退任 (確認) の確認

阿部 博 (テプコシステムズ)

②委員選任 (決議) の承認決議

齋藤 寿輝 (テプコシステムズ)

委員退任 (確認) が確認され、審議の結果、委員選任 (決議) が承認された。

d. システム安全専門部会

①委員退任 (確認) の確認

巻上 毅司 (東京電力ホールディングス)

②委員再任 (決議) の承認決議

中川 信幸 (原子力エンジニアリング)

委員退任 (確認) が確認され、審議の結果、委員再任 (決議) が承認された。

e. 原子燃料サイクル専門部会

①委員再任 (決議) の承認決議

小畑 政道 (東芝)

白井 茂明 (リサイクル燃料貯蔵)

田中 忠夫 (日本原子力研究開発機構)

審議の結果、委員再任 (決議) が承認された。

(3)【報告・審議】“核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*”の標準原案について(公衆審査結果及びその対応, 誤記チェック結果)(SC70-3-1, SC71-3-2, SC71-3-3, SC71-3-4)

事務局から SC71-3-1 に基づいて, “核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*”の標準原案に関する公衆審査で意見を受付けたことが報告された。引続いて, リスク専門部会の吉田委員から SC71-3-2, SC71-3-3 に基づいて, 当該公衆審査で受付けた意見への回答案及び当該標準原案に関する誤記チェック結果について報告があった。

審議の結果, 今回の審議でいただいた意見を反映した回答案を意見提出者に連絡すること及び誤記チェック結果(案)について2週間の意見募集を行うことが決議された。主な質疑等は次のとおり。

C:” 附属書が多くあるので, 修正後は附属書の参照ページも付けておくと読む方が楽になる。(解説も)”の意見に対する回答では, ” 実施基準の作成の手引きに従い公衆審査案文・・・” でなく” 実施基準作成の手引きに従い作成していますので公衆審査案文・・・” がよい。

C: 手引きではなく” ガイドライン” が正しい。

Q: パブコメ意見に対する回答をこんな様式で行うのか。

A: 事務局から頂いた様式で作成している。

Q: パブコメ中の合間に誤記チェックをするとはどういうことか。誤記があるものを標準委員会に審議させているのか。

A: リスク専門部会の投票前に, 誤記チェックは実施している。前回のチェックでは参考文献のチェックが不十分であったので参考文献関連の誤記が多く見つかった。

Q: 誤記チェックの No.19, 二重否定は, 分類③でなく, ②ではないか。

A: 部会, 分科会ではこの点について議論は無かったが, 個人的には②が適切と思う。

C: 誤記の分類に問題が散見される。意見募集してはどうか。

(4)【報告・審議】“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準”の標準改定原案に関する公衆審査結果について(SC71-4)

風洞実験実施基準分科会の伊藤幹事から SC71-4 に基づいて, “発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準”の標準改定原案に関する公衆審査で意見がなかったことが報告された。審議の結果, 当該標準改定原案を制定することが決議された。

(5)【報告・審議】“原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準(レベル1 PRA 編 : 201X)”の標準改定原案に関する標準委員会決議投票で受付けた意見への対応について(SC71-5)

レベル1PRA 分科会の橋本幹事から SC71-5 に基づいて, “原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準(レベル1 PRA 編 : 201X)”の標準改定原案に関する標準委員会決議投票で受付けた意見への対応案について報告があった。審議の結果, 再度リスク専門部会で当該対応案について検討した結果についてメール審議し, 次回の標準委員会で審議することとなった。

主な議論は次のとおり。

- ・箇条 9.4 内の一部規定文について, 表現を適正にすること。

- ・解説 2 での” 廃炉中” は” 廃止措置中” が適正と考えられることから検討すること。
合わせて、幾つかの表現を適正にすること。

(6) 【報告・審議】“中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の標準改定原案に関する標準委員会決議投票結果及びその対応について (SC71-6-1, SC71-6-2, SC71-6-3)

事務局から SC71-6-1 に基づいて、“中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の標準改定原案が標準委員会の決議投票で可決されたことが報告された。引続いて、LLW 放射能評価分科会の北島幹事、柏木常時参加者から SC71-6-2, SC71-6-3 に基づいて、決議投票で受付けた意見への対応案について報告があった。結果審議の結果、当該対応案で 1 箇月間の公衆審査に移行することが決議された。

主な質疑等は次のとおり。

Q: 適用範囲の,” 主として” は,” 原子力発電所” に掛かっているか、それとも” ・ ・ 低レベル放射性廃棄物” に掛かっているか?

A: ” 原子力発電所” に掛かっている。

C: 解説目次に関しては、非常に役立つ内容が記載されているため、目次を付けた方が良く考えた。タスクで解説目次などの扱いに関して、協議する。

(7) 【報告・審議】 PLM 実施基準 2017 (追補 2) の標準原案に関する標準委員会決議投票結果及びその対応について (SC71-7-1, SC71-7-2)

事務局から SC71-7-1 に基づいて、“高経年化対策実施基準 2018 (追補 2)” の標準原案が標準委員会決議投票で可決されたことが報告された。引続いて、PLM 分科会の中川幹事、伊藤常時参加者から SC71-7-2 に基づいて、当該決議投票で受付けた意見への対応案が報告された。審議の結果、当該対応案で 1 箇月間の公衆審査に移行することが決議された。

(8) 【報告・審議】 PLM 実施基準 2015 (英語版) に関する標準委員会意見募集結果及びその対応について (SC71-8-1, SC71-8-2)

事務局から SC71-8-1 に基づいて、“原子力発電所の高経年化対策実施基:2015” (英語版) のコメント募集結果が報告された。引続いて、PLM 分科会の中川幹事、伊藤常時参加者から SC71-8-2 に基づいて、当該コメント募集で受付けた意見への対応案が報告された。審議の結果、当該対応案で発行することが決議された。

(9) 【報告・審議】“原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準 (レベル 3PRA 編) : 201X” の標準の修正に関する標準委員会決議投票結果及びその対応について (SC71-9-1, SC71-9-2, SC71-9-3)

事務局から SC71-9-1 に基づいて、“原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準 (レベル 3PRA 編 : 201X)” の標準の修正が可決されたことが報告された。引続いて、リスク専門部会の成宮幹事、野村常時参加者から SC71-9-2 及び SC71-9-3 に基づいて、当該投票で受付けた意見への対応案及び転載許諾手続きに伴う修正案について報告があった。審議の結果、転載許諾手続きに伴う修正を反映した該対応案で発行することが決議された。

(10)【報告・審議】“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－よう素 131”，“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－コバルト 60 イオン”及び“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－金属不純物”の標準原案に関する本報告について (SC71-10)

水化学管理分科会の北島幹事，梅原常時参加者から SC71-10 に基づいて，沸騰水型原子炉の水化学分析方法－よう素 131”，“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－コバルト 60 イオン”及び“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－金属不純物”の標準原案が報告された。審議の結果，次回の標準委員会で決議投票への移行について審議するために当該 3WR 水化学分析標準原案を事前に送付することとなった。

主な質疑等は次のとおり。

C: 標準原案そのものがないと審議対象がないため議論できない。以前は HP で公開の上，プロジェクトに投影していたが今はそのシステムではない。

C: 次回標準委員会までに標準原案 3 件を各委員にメールで事前送付し，その上で次回標準委員会において，書面投票に移行できるか否かを審議することとする。

Q: シリカという表記は適切か？たとえば二酸化ケイ素などではないか。

A: “沸騰水型原子炉の水化学管理指針：20XX (AESJ-SC-S00X:20XX)”においてシリカで定義しているため，それに合わせてシリカとしている。

Q: スライド p. 11 に示す数値は根拠があるか？または公開文献からの引用が可能か？

A: 濃度範囲については一般的な BWR プラントの水質データを根拠としており，公開文献からの引用は不可と考える。また，分析精度については文部科学省の測定マニュアルを根拠に設定している。

(11)【報告・審議】“原子力発電所におけるシビアアクシデントマネジメントの整備及び維持向上に関する実施基準：201X”の標準改定原案に関する本報告について (SC71-11-1, SC71-11-2)

シビアアクシデントマネジメント分科会の鎌田幹事，黒岩委員から SC71-11-1, SC71-11-2 に基づいて，“原子力発電所におけるシビアアクシデントマネジメントの整備及び維持向上に関する実施基準：201X”の標準改定原案が報告された。審議の結果，当該標準原案に関する 15 日間の標準委員会決議投票に移行することが決議された。

主な質疑等は次のとおり。

Q1: 事業者からは，この標準を使ってどのようなメリット，デメリット，課題及び改善点等が出されているのか。実際標準を使ってもらわないと適用性が分からないのでは。

A1: 以前の御指摘の通り，標準の実効性向上については，今後この改定版を発電所で試運用して頂き，知見を反映していくことを検討している。一部の電力からは，本標準の導入，活用を前向きに検討頂いている旨の回答を得ている。

Q2: 例えば，マネジメントクラスという観点が事業者にとって有効に使える考え方なのかを見極めることが重要である。研究としては面白いが，改定に試運用の結果を反映していかないと実務への活用はできないはず。

A2: 改定作業では，分科会所属の電力委員からレビュー頂いて，標準には反映しているが，プラントへの試運用は未実施であり，実効性を高める迄には至っていない。

- Q3：リスクの寄与度というのは、厳密には寄与割合のことか。どのような定義か。
- A3：AM 活用による CDF の低減割合や PRA の結果としてのドミナントシーケンスの全 CDF に占める割合として用いている。相対的な指標であり、絶対値より分かり易い。
- Q4：ここでは統計的な定義とは異なる意味で使われているのか。パワポ 11p. の寄与割合の意味は。
- A4：事故シーケンスグループの重要性分類を行うために、11p. では、寄与度を表す指標の例として全 CDF への寄与割合を用いて分類した場合を示している。
- Q5：18p. のシナリオレス事象の範囲等はどう特定するのか。
- A5：(シナリオ事象のような) 影響伝播の評価の俎上に載らない事象。大地震等が発生して” 過大 LOCA”, ” 長期 SBO”, ” 最終ヒートシンク機能喪失” が同時に起こるような非常に短い時間、大規模な範囲で損壊が起こるため、結果から遡及して脆弱性を特定する。各電力は標準の附属書 I で示すような大規模損壊として審査対応しており、幾つかの代表シナリオの例示からどれに該当するかを同定することになる。
- Q6：例えば地震 PRA で次々と建屋が損壊していくといった、階層イベントツリーで炉心損傷直結と評価しているシナリオがあるが、これはシナリオレス事象か。
- A6：地震 PRA の俎上に載るような事象は一般的にはシナリオ事象として扱うが、階層イベントツリーで炉心損傷直結としている事象は、シナリオレスであり、結果から遡及することが可能な大規模損壊相当に分類される。本標準ではシナリオレス事象を、これら脆弱性を特定できる領域と、これらを更に超えた領域(低頻度・高影響事象)に分類して整理している
- Q7：電気協会の JEAG4612 における SA 設備の重要度分類との連携についてはどのように考えているのか。
- A7：現状から言うと明確な方針は決まっていないが、IAEA の SSG-30 のガイドでは DBA, DEC 領域の機器の安全機能に対して決定論をベースにリスクの F-C カーブで補完する考え方であり、これに準拠していくと予想している。マネジメントクラスのようなリスク活用ベースの考え方は導入されない見込み。
- Q8：12p. で経済性が指標となっているが、標準の考慮要件となっているのか。事業者が経済性を考慮するのは分かるが、標準で経済性を考慮するのは違和感がある。
- A8：AM 候補を設定する際に、当然安全機能に見合った経済性を合理的に考慮するはず。またフローの最後の分岐である工学的判断でも検討対象となる。本標準ではグレーデッドアプローチを謳っており、リスクの重要度だけでなく、コストパフォーマンスも考慮要件に入れている。
- Q9：シナリオレス事象の目標、対策系をどう考えるのか。
- A9：シナリオレス事象は脆弱性特定のための定量評価ができないため、対策系については最新知見を総動員して工学的判断を行うことになる。本標準の AM 策定、マネジメントクラス、AM 策定のロジックについてはシナリオ事象を対象としている。
- Q10：東電の隕石落下の事例はまさに電力目線の良好事例であり、検討対象とすべ

きと思うが。

A10：当該事象は附属書には含めていない。

Q11：書面投票にあたって標準の改定箇所を明確にして欲しい。

A11：拝承。

(12)【報告】“原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X”の標準原案に関する標準委員会意見募集結果及びその対応について (SC71-12-1, SC71-12-2)

事務局から SC71-12-1 に基づいて、“原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X”の標準原案に関する標準委員会意見募集結果が報告された。引続いて、統合的安全性向上分科会の成宮主査、倉本幹事、野村常時参加者から SC71-12-2, SC71-12-3 に基づいて、実施基準案の検討状況、及び当該意見募集で受付けた意見への対応案が報告され、当該案に関する1箇月程度の意見募集を行うこととなった。

(13)【報告】“原子力施設の確率論的リスク評価標準で共通に使用される用語の定義：201X”の標準改定原案に関する標準委員会意見募集結果及びその対応について (SC71-13-1, SC71-13-2)

事務局から SC71-13-1 に基づいて、“原子力施設のリスク評価標準で共通に使用される用語の定義：201X”の標準改定原案に関する標準委員会の意見募集結果が報告された。引続いて、リスク専門部会の成宮幹事、野村常時参加者から SC71-13-2 に基づいて、当該意見募集で受付けた意見への対応案及び対応案を反映した標準改定原案について報告があった。

(14)【報告】“原子力施設のリスク評価の品質確保に関する実施基準：201X”の改定の中間報告について (SC71-14)

リスク専門部会の成宮幹事、野村常時参加者から SC71-14 に基づいて、“原子力施設のリスク評価の品質確保に関する実施基準：201X”の改定について中間報告があり、当該改定案に関する30日間の意見募集を行うこととなった。

(15)【報告】“BWRの核熱水力安定性評価標準：201X”の改定に係る中間報告 (SC71-19-1, SC71-19-2)

BWR 熱流動評価分科会の久保幹事、末廣幹事から SC71-19-1, SC71-19-2 に基づいて、“BWRの核熱水力安定性評価標準：201X”の改定に係る中間報告があり、当該改定案に関する30日間の意見募集を行うこととなった。

主な質疑等は以下のとおり。

Q：V&V や保守性の担保において真値と試験結果がどう違うのかを分かるようにして欲しい。また、適用上の留意点の例を解説などに書いて欲しい。

A：読者が理解しやすいように丁寧に書くことを検討させていただきたい。

(16)【報告】技術レポート・学協会規格体系化報告書(案)について (意見募集) (SC71-15)

原子力安全検討会の河井幹事から SC71-15 に基づいて、技術レポート・学協会規格体系化報告書(案)について報告があり、当該報告書(案)に関する 30 日間の意見募集を行うこととなった。コメントとして、当面は技術レポートとはせず議論を開始するための内部レポートとするが、番号は取っておく方が良い、など。

(17)【報告】技術レポート・用語辞典の更新(案)について(意見募集)(SC71-16)
標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC71-16 に基づいて、技術レポート・用語辞典の更新(案)について報告があり、技術レポート・用語辞典の更新(案)に関する 30 日間の意見募集を行うこととなった。

(18)【報告】基本戦略タスク関係
(18-1) 標準活動基本戦略タスクの報告と論点(SC71-17-1-1, SC71-17-1-2)
(18-2) 2018 年度活動計画(案)について(意見募集)(SC71-17-2)
標準活動基本戦略タスクの伊藤主査から SC71-17-1-1, SC71-17-1-2, SC71-17-2 に基づいて、標準活動基本戦略タスク 2017 年度第三回議事録、標準委員会活動全体計画(年間工程表)(H28 年版, H29 年版)、2017 年度活動中間報告及び 2018 年度活動計画(Draft) について報告があり、2018 年度活動計画(案)に関する 30 日間の意見募集を行うこととなった。

(18-3) 標準策定 5 ヶ年計画の更新ガイドラインについて(意見募集)(SC71-17-3)
(18-4) 標準策定 5 ヶ年計画の更新の依頼の発出について(SC71-17-4)
(18-5) 標準委員会活動 5 ヶ年計画について(意見募集)(SC71-17-5)
(18-6) ANS 内規とのギャップ分析について(SC71-17-6)
(18-7) 3 学協会での学協会規格整備計画の動向について(電事連との規格類意見交換会を含む)(SC71-17-7)
標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC71-17-3, SC71-17-4, SC71-17-5, SC71-17-6, SC71-17-7 に基づいて、“標準策定 5 ヶ年計画の更新ガイドライン(案)”, “標準委員会活動 5 ヶ年計画(案)”, “ANS 内規とのギャップ分析について” 及び “学協会協議会及び基本戦略タスクでの学協会規格整備計画の検討状況” について報告があり、標準策定 5 ヶ年計画の更新ガイドライン “,” 標準委員会活動 5 ヶ年計画”, “ANS 内規とのギャップ分析について” 及び “3 学協会ステートメント” に関する 30 日間の意見募集を行うこととなった。

(18-8) 倫理教育のフォロー状況について(SC71-17-8)
(18-9) 倫理教育実施ガイドラインの制定について(意見募集)(SC71-17-9)
(18-10) 標準委員会標準/技術レポートの審議の留意点について(SC71-17-10)
標準活動基本戦略タスクの高橋委員から SC71-17-8, SC71-17-9, SC71-17-10 に基づいて、“倫理規程等の周知徹底に向けた活動フォロー”, “倫理教育実施ガイドライン(案)” 及び “標準委員会における標準/技術レポートの審議の留意点” について報告があり、倫理教育実施ガイドラインについては、30 日間の意見募集を行うこととなった。

その他の報告は以下のとおり。

- ・ 倫理規程等の周知徹底に向けた活動フォローについては、現状、分科会の状況を含めて 9 割弱の実施状況であり、約 500 名の関連委員の全員受講を目指して、3 月の

標準委員会で今年度の最終フォローを行うとの報告があった。

- ・標準委員会における標準／技術レポートの審議の留意点については、6月の標準委員会での議論をふまえ整理しており、今後、審議要領等に反映していく予定との報告があった。

(18-11) 春の大会の企画セッションについて (SC71-17-11)

標準活動基本戦略タスクの成宮幹事から SC71-17-11 に基づいて、春の大会の企画セッションについて報告があった。

(18-12) 標準委員会専用サーバの運用について (SC71-17-12)

標準活動基本戦略タスクの中越事務局から SC71-17-12 に基づいて、標準委員会専用サーバの運用について報告があった。

(18-13) 標準委員会の出席状況並びに投票状況及び投票メールの扱いについて

(SC71-17-13-1, SC71-17-13-2, SC71-17-13-3)

(18-14) 平成30年度フェロー候補の推薦について (SC71-17-14)

標準活動基本戦略タスクの田老事務局から SC71-17-13-1, SC71-17-13-2, SC71-17-13-3, SC71-17-14 に基づいて、標準委員会の出席状況、投票状況及び投票メールの扱い並びに平成30年度フェロー候補者の推薦について説明があった。また、標準委員会から関村委員長をフェローとして推薦することについて報告があった。

(19) 【報告】 ASRAM2017 の開催報告 (SC71-22)

標準委員会の成宮委員から SC71-22 に基づいて、ASRAM2017 の開催報告があった。

(20) 【報告】 2017.9 ASME/AMS/JCNRM の参加報告 (SC71-参考3)

リスク専門部会の成宮幹事から SC71-参考3 に基づいて、2017.9 ASME/AMS/JCNRM の参加報告があった。

(21) 【報告】 原子力安全検討会の活動状況報告 (SC71-22)

原子力安全検討会の成宮幹事から SC71-22 に基づいて、原子力安全検討会の活動状況報告があった。

6 その他 (次回日程)

次回は2018年3月7日(水) 午後から

以上